

国の内外でパワフルな活躍をされた地質調査所時代の大先輩、平山次郎氏の生涯と業績（後編）

徳橋 秀一¹⁾・柳沢 幸夫²⁾

前編(徳橋・柳沢, 2023a)では、主に国内での活動や業績について、中編(徳橋・柳沢, 2023b)では、海外での活動や業績について紹介しました。後編では、平山さんの晩年の生活などを中心に紹介し、全体を締めくくらせていただきます。なお、各章の番号や図表類の番号は、全体を通しての番号です。

5. 平山さんの晩年から最晩年

ラジオ語学講座による外国語学習

平山さんは、語学の勉強が大好きで、長女の美咲さんによると、長年、毎朝6時から8時までNHKのラジオ語学講座8コマを聴いておられたということです。その8コマとは、中学生基礎英語レベル1、レベル2、中高生の基礎英語 in English, ラジオ英会話、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語だということです。テキストは、1年分を前もって書店に払い込み、毎月自宅に届けてもらっていたということです。サウジアラビアから戻られたときには始められており、亡くなる直前までやっておられたということです。足掛け45年以上はやられていたことになり。その熱意には感嘆・感服します。また、毎朝前日の出来事をパソコン上で記述しておられ、この習慣も最期まで続けられたようです。平山さんが最期まで頭が明晰だったのは、このような長年の習慣と深く関係しているのではないかと推察されます。

JICE (ジャイス) の研修監理員としての活躍

平山さんは、最後の海外専門家派遣先のパキスタンのイスラマバードから帰国されてから約1年後の1996年11月から2000年の3月まで、財団法人日本国際協力センター (Japan Center for International Exchange: JICE: ジャイス) の研修監理員として活躍されました。JICEは、1977年3月に設立され、2013年4月には一般財団法人に移行し、「留学生受入支援」、「国際研修」、「国際交流」、日本国

内における「多文化共生」や「日本語教育」などの人材育成分野を中心に、日本の国際活動の一端を担う組織であるということです。研修監理員とは、日本の各種機関(JICA: (独)国際協力機構など)から受託する人材育成事業(主に本邦受入研修, 交流, 留学生支援, 多文化共生等)において、各プログラムの成果を高めるために行う包括的なファシリテーション業務です。打合せ・資料作成・通訳準備等の事前準備から、通訳・プログラム進行・理解促進・引率や生活上のケア・関係者の調整・緊急時対応・資料配布等の現場対応などを行う現場監理, 報告書作成・経費精算等の事後処理などを行う業務ということで、各種事業の遂行の上で最も重要な核となる人物といえるでしょう。事前に得意な外国語などを登録しておく必要があるそうです(以上、JICEのウェブサイトより: <https://www.jice.org/activities/training.html> ほか参照)。

平山さんは、主に海外からの集団技術研修のファシリテーション業務などに従事したということです。かつて平山さんから、研修に関する専門的知識の習得とそれをその国のことば(専門用語も含む)で説明しなければならぬので、なかなか大変な業務だという話を聞いたことがあります。ただ、何事にも果敢にそして徹底的に挑戦するという平山さんの性格に合っており、やりがいを感じておられたようです。もちろん、平山さんの長年の海外での業務経験や語学学習の蓄積が、今度は国内でできる国際交流の促進に大いに役立つとともに、60代後半になられた平山さんにとって、新しいそして最適な活躍の場が得られたように思います。

房総平山スクール同窓会メンバーや後輩との交流

先に紹介したように、1969年～1973年頃、いくつかの大学の学生が、卒業論文や修士論文を地質調査所地質部の平山さんや同鉱床部の中嶋輝允^{てるまさ}さんの指導の下で、実施しました。また、ほぼ同じころの夏休みには、より多くの学生に加えて高校の先生も参加して、房総団体研究グ

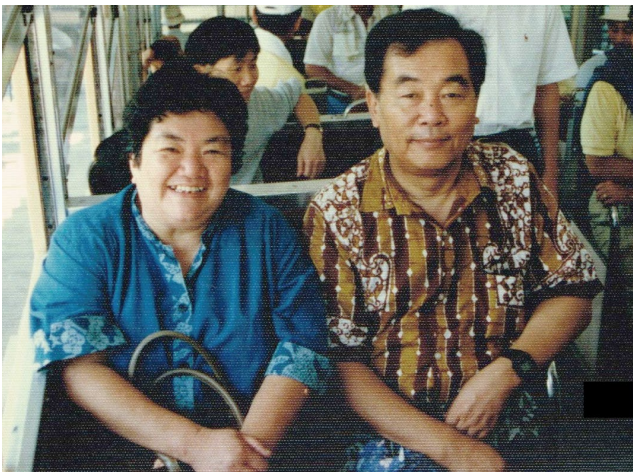
1) 産総研 地質調査総合センター元職員

2) 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：平山次郎、地質調査所、JICE 研修監理員、晩年の生活



第31図 房総平山スクール同窓会の様子（筑波山山頂付近）
左から、中嶋さん、平山さんご夫妻、山本さん、細川さん、岩脇さん、石井さん、高木さん、
棚橋さん（1991年8月25日、徳橋撮影）。



第32図 筑波山ケーブルカーの中での平山さんご夫妻（1991年8月25日、徳橋撮影）



第33図 車椅子の平山さんの奥様を囲んで（2012年6月23日小田急相模原駅ビル）
後列左から、高木さん、細川さん、平山さん、中嶋さん、石井さん。前列左から、徳橋、平山さんの奥様。

ループ(房総団研)というグループを作って共同研究も実施していました。そして、そのころに房総での研究に参加した人でその後連絡が可能であった人々で、房総平山スクール同窓会という一種の親睦団体をつくり、その後もときどき集まるなど交流を続けました。当初は、筑波山周辺で一泊旅行をやったり(第31, 32図)、あるいは東京の浅草観音周辺を巡ったりと、平山さんご夫妻や中嶋さんを含めて、観光を兼ねながらの交流を行っていました。その後、平山

さんの奥さんが病気で車椅子生活になられてからは、平山さんの自宅に近い小田急相模原駅のビルに集まり、昼食会などを何度か実施しました(第33図)

平山さんは、1995年、最後の長期派遣先であるパキスタンからもどられてからは、神奈川県相模原市のマンションに住んでおられました。そして、2017年12月に奥様が亡



第34図 相模原市の平山さんの自宅にて(2018年4月10日)
左から、山本さん、石井さん、平山さん、徳橋。

くなられた後は、同じマンションに住む長女の美咲さんが出勤前などに平山さんの様子を見に来ておられたということですが、基本的にはお一人での生活でした。そして、週1回のデイサービスへの参加、週末の近くの教会での集いへの参加を楽しみにしておられました。ただ、自宅では話し相手がいなくて大変寂しいといっておられましたので、房総平山スクール同窓会の関係者で、時々平山さんの自宅を訪れ、昔話に花を咲かせたりしました(第34図)。

またある時は、平山さんが昔所属していた地質調査所地質部の後輩にあたる筆者の一人の柳沢が、平山さんが昔従事していた5万分の1地質図幅作成のための野外調査時のデータを記した野帳が残っていれば、そのデータをスキャンし、産総研地質調査総合センター(昔の工業技術院地質調査所)のアーカイブ資料として保存したいということで、平山さん宅を訪問しました。しかし残念ながら、図幅作成時の野帳は旧地質調査所に残してきたので平山さんは持っていないということでした。ただ平山さんは、ネパールなど海外赴任した折の地質調査の際に作成した野帳は何冊も保管しておられましたので、それらを見せていただきました(第35図)。特にネパールで作成された野帳には、大変きれいなルートマップ図がたくさん描かれているのに感動しました。それで平山さんの了解を得て、一時ネパール関係の野帳を預かり、そのスキャンデータを地質調査総合センターのアーカイブ資料として保管させていただきました。平山さんは、それらの資料は自由に使っても公開してもらってもいいよといっておられました。そのような経緯もあって、先のネパールでの調査研究成果のところまでそのごく一部を紹介させていただいた次第です(徳橋・柳沢、



第35図 相模原市の平山さんの自宅で、昔の野帳の中身を検討する平山さんと柳沢(2018年12月9日、徳橋撮影)



第36図 ニコニコしながらくつろぐ平山さん(2018年12月9日、柳沢撮影)
右側には、奥様が使っておられた車椅子があります。

2023bの第19図参照)。この日の平山さんは、特にニコニコしておられました(第36図)。

その後、借りていた野帳のお返しを兼ね、また都合のつく房総平山スクール同窓会の何人かのメンバーとともに平山さん宅を訪問し、昼食をご一緒しました(第37図)。この



第 37 図 近くの駅前で買ったお寿司などを前に乾杯！
左から、細川さん、岩脇さん、柳沢。右側は、平山さん。
結果的に、この時がみんなで揃って平山さんとお会いした
最後の日となりました（2019年5月23日、徳橋撮影）。

あと、我々の質問に答えながら、幼少時代から地質調査所時代まで、いろいろなことをお話していただきました。平山さんが、細かなところまで正確に覚えているのに、参加者一同感心したことを覚えています。この時のお話にはいろいろ貴重な内容が含まれていたということで、帰宅後柳沢がワープロに記録し、それをその日参加した何人かでチェックした上で、房総平山スクール同窓会の関係者で共有しました。またその内容の一部は、今回の紹介文でも活用させていただきました。

老人ホームへの引っ越し

その後、長女の美咲さんが平山さんの様子をときどき見に行くことができないという事情が生じたことから、2020年10月初めに相模原市のお隣の座間市にあるできて間もない鉄筋コンクリート製の住宅型老人ホーム（各自の居室＋食堂やお風呂などの共有施設）に移られました。しかし、ラジオ語学講座の聴講やパソコンを使った毎日の日誌づくり、それにそれまで通っておられたデイサービスへの参加（このときは週2回）は、続けられたということです。ただ、居室に固定電話がないために使い慣れていない携帯電話に代わったということで、最初の頃は、その携帯電話でお話しながら、基本的な使い方についてやりとりしたこともありました。その後、長女の美咲さんがご主人の仕事の関係で福島に移られたことから、2021年の12月中旬に、福島市内の介護付き老人ホーム（各自の居室＋食堂やお風呂などの共用施設）に移られました。

平山さんの最期

しかし、翌年の5月下旬に嚥下機能悪化による誤嚥性肺炎を発症され、それ以後は病院でいろいろな治療がなされたということですが、基本的に寝たきり状態がつづき、2022年6月19日（日）の午前10時00分に亡くなられたということでした（享年90歳）。福島の施設に移動されてから6か月が過ぎたばかりでした。しかし、奥様の出身地である会津に近い福島で亡くなられたということは、奥様との深い因縁を感じざるをえません。きっと天国で、大好きな奥様と再び楽しくお過ごしになっておられるのではないのでしょうか。葬儀は、ご家族で行われたということです。

平山さんからの最後の年賀状

2022年元旦に届いた平山さんからの年賀状には、福島は奥様の生まれ故郷であり二人が初めて出会った会津に近いので、里帰りに近い気分ですと書いてありました（第38図）。この年賀状は、平山さん自身がパソコンで作成し、プリントされたものであることから、平山さんの頭は、満90歳を過ぎていても大変明晰であったことが伺えます。この年賀状の上半分には、エベレストをバックにしたヒマラヤ山系の写真が掲載されていることから、ネパールでのヒマラヤ調査が特に思い出深かったのかもしれません。見方によっては、遠くにそびえるエベレスト山系が平山さんと奥さまのようにもみえ、遠くからみんなを見守っているよと伝えているようにもみえます。

6. おわりに

ここまで平山さんの生涯を、いくつかの場面に分けて振り返ってきましたが、平山さんは、国内と国外の両方で縦横無尽にパワフルに活躍された人でした。平山さんは、ここぞと思った対象には徹底的に取り組み結果を出すというエネルギーと能力にあふれた人で、新しい研究分野の創出に貢献されました（徳橋・柳沢、2023a）。また平山さんは、勤務先であった地質調査所の業務の遂行にも大変熱心で、地質図幅調査や海外業務（専門家派遣や国際協力）の分野で貢献されました。特に海外業務では、国際協力という地質調査所の業務の一環を積極的に背負うことによって、いくつもの国での多様な活躍が実現できたのではないかと思います。すなわち、平山さんの国内外での活躍は、地質調査所の業務の発展に支えられ、またそれを支えることによって実現できたという表裏一体の関係にあったということを、本報文をまとめていて強く感じました。そしてそのような認識から、平山さんが専門家として各国に赴任される



第38図 2022年正月に届いた平山さんからの最後の年賀状
平山さんが自らパソコンを使って作成し、プリントして送って来られたものです。写真の背景には、エベレストが写っていることから、ネパール滞在中に撮られたものと思われます。

場合も、それぞれの国で専門家派遣が決まった経緯やそれまでに派遣された専門家の流れなど、地質調査所としての係わりや背景を説明した上で、平山さんの業務や業績について紹介するようにしました(徳橋・柳沢, 2023b)。また、国内外におけるこのような平山さんの能力の発揮には、採用のときに始まり、地質調査所における基礎研究の重視や本格的な国際交流の土台づくりに貢献された当時の兼子勝所長の存在が大きかった点についても言及しました。このような平山さんの活躍や業績が認められて、2002年11月に、平山さんは勲四等旭日小綬章を授与されました。

一方で平山さんは、若い頃から人生の存在意義(ひとはなぜ生きるのか)について人知れず悩み続けておられ、その結果、29歳の時にキリスト教に入信されたということです。このように平山さんは、豪放磊落な外見とは違って精神的には大変ナイーブな人でもあったようですが、このことを知っている人はごく一部の人に限られていたようです。私たちも平山さん宅を最後に訪問し昔の話をあれこれお聞きした折に、このことを初めて知った次第です。平山

さんには、一男二女の3人の子供さんがおられました。次女の美幸さんは、病気で18歳のときに亡くなるなど、大変辛い経験もされました。また、先に紹介したように、最愛の奥様も平山さんより4年半ほど先に亡くなられましたので、最晩年は寂しい人生でもあったかと思えます。しかし、平山さん自身はほぼ満90歳で亡くなる直前まで元気にしておられましたので、その点では恵まれていたのではないかと思います。長い間大変ご苦労様でした。また、いろいろお世話になりありがとうございました。心から平安をお祈りいたします。

本報文を執筆するにあたり、多くの方々からご協力をいただきました。特に平山さんの長女の武田美咲様には、ご家族でないといけないたくさんのお情報をご提供いただきました。工業技術院地質調査所(現在の産業技術総合研究所地質調査総合センター)出身もしくは在職中の井上英二氏、中嶋輝允氏、小笠原正継氏、内田利弘氏、小松原純子氏には、資料提供や情報提供などでご協力いただきました。心からお礼を申し上げます。ただ、平山さんが活躍された時期からはかなりの年数を経ているために、当時のことを知っている人が極めて限られていること、著者の2人も平山さんとは世代を異にする若輩者であるため、幅広い分野で活躍された平山さんの活動のごく一部のことしか知っていなかったなどの理由から、記述内容が不十分であることは否めませんし、もしかすると誤りもあるかもしれません。その場合は、ご容赦いただくとともに、ご教示いただければ幸いです。

文 献

- 徳橋秀一・柳沢幸夫(2023a) 国の内外でパワフルな活躍をされた地質調査所時代の大先輩、平山次郎氏の生涯と業績(前編)。GSJ地質ニュース, 12, 103-111。
徳橋秀一・柳沢幸夫(2023b) 国の内外でパワフルな活躍をされた地質調査所時代の大先輩、平山次郎氏の生涯と業績(中編)。GSJ地質ニュース, 12, 200-220。

TOKUHASHI Shuichi and YANAGISAWA Yukio (2023) Life and achievements of the late Dr. Jiro Hirayama, a powerful researcher of the Geological Survey of Japan, who left many advanced achievements both in domestic and overseas works (Part 3/3).

(受付: 2023年3月16日)